

DO YOU KNOW?

知ってますか？

16億人の危機・ヨード欠乏症

ヨード欠乏症とは

ビタミンAが足りないと目になるとか、カルシウムが足りないと骨粗しょう症になるとかはよく耳にしますが、「ヨード」が足りないとどうなるかという話は、日本ではあまり聞かれませんが、ヨード（ヨウ素）とは土壌などに含まれる元素です。日本では、日常の食事で体に補給されているのですが、下図のような世界の山岳地域や大雨・洪水などの多い地域では、土壌のヨードまで流され、結果として食物のヨード分が少なくなり、そこに住む人々がヨード欠乏症（IDD）にかかりやすくなります。

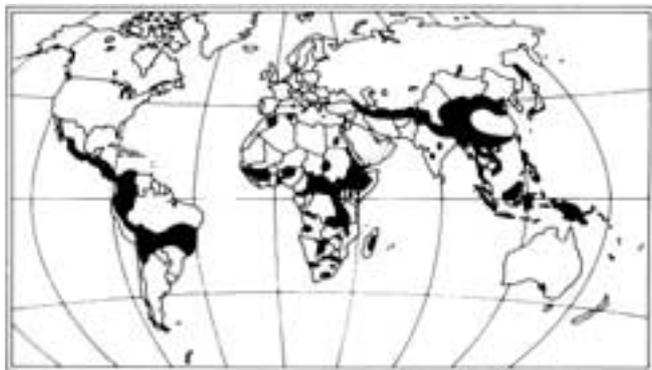
人体に不可欠な栄養素であるヨード不足の影響は、人体形成の初期ほど深刻です。母体にヨードが不足すると、クレチン症（先天性甲状腺機能低下症）の原因となり、生まれた子どもにも知能低下、発育不全、神経障害など引き起こします。しかも、重症になると甲状腺ホルモンをいくら投与しても知能低下などを治療することは不可能となります。成長期の乳幼児の場合、からだの発達の遅れや障害もありますが、むしろ、脳や中枢神経系の発育に重大な影響を受けます。成人になって不足してきた場合は主に甲状腺肥大の原因になります。



ヨード不足で甲状腺肥大になった女性

世界の状況

アメリカ、カナダ、ドイツ、イタリア、スイスなど多くの国でもヨード不足があり、食塩にヨードを添加しています。心配のない国は海藻をよく食べる日本と韓国ぐらいともいわれています。1993年にユニセフとWHOが合同で発表した資料によれば、ヨード欠乏症の危険にさらされている人々は、世界総人口のほぼ3割に当たる約16億人と推定されています。とくに、途上国を中心にクレチン症570万人、脳の損傷2600万人、甲状腺腫6億5500万人など多くが苦しんでおり、対策を急ぐ必要があります。



世界の主なヨード欠乏地域

ユニセフの対策

重度のヨード欠乏症を治療することは困難ですが、予防することは比較的簡単です。

ユニセフはほとんどすべての先進工業国で解決された方法、すなわち、毎日の生活で消費される食塩に少量のヨードを添加する、1人年間5円以下という低コストで確実な予防方法を推進しています。その他、ヨード油の注射、ヨード油のカプセル、井戸に徐々に溶解するヨードを投入する方法など、108か国で予防対策を講じています。

日本はヨード産出世界一

ヨードは元素であり、自然から取り出すしかありません。海藻類からも取れますがコストがかかり過ぎ、日本では現在、水溶性天然ガスのかん水（塩を多く含んだ水）から生産しています。

かん水には古代の海藻類の化石のヨードが多量に溶け込み、それをイオン交換樹脂法で取り出しています。

ヨードの世界の生産量年間12000～13000トンのうち日本は約7000トン（アメリカ約3000トン、チリ2000～3000トン）と断然トップで、世界の予防対策上でも大きな期待が寄せられているのです。

日本ユニセフ協会もこの秋の学校募金からモンゴルのヨード対策の指定募金を開始し、積極的に支援を行うことになりました。この指定募金の目標は、少なくとも2000年までに新たな患者の発生を防ぐことです。



取材協力：日本天然瓦斯興業株式会社

